

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	FeedParla		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 16日		～ 2025年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		～ 2026年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育を強みとし、小学生から高校生までが安全に身体を動かせる十分な活動スペースを確保している。発達段階や特性に応じた運動支援により、自己肯定感や挑戦する意欲を育てている。	運動療育の目的やねらいを明確にし、年齢や理解度に応じた支援内容を構成している。日々の活動で見られる変化や成長を保護者に分かりやすく伝え、家庭との連携を大切にしている。	年齢や発達特性に応じた運動内容・活動量の調整を継続し、集団活動と個別支援を目的に応じて使い分けていく。活動環境の見直しを行い、より安心して参加できる支援体制の充実を図る。
2	保護者や学校、他事業所と日常的に情報共有を行い、家庭・学校・事業所が同じ方向性で支援できる体制を整えている。連絡帳や送迎時のやり取りを通じて、日々の様子を支援に反映している。	支援の目的や子どもの成長の変化を、保護者や関係機関に分かりやすく共有することを意識している。日々の情報交換を大切にし、関係者全体で子どもを支える連携体制づくりに取り組んでいる。	送迎時や連絡帳を活用した保護者との連携を継続しつつ、情報共有の方法や内容を見直していく。学校や他事業所との連携をさらに深め、生活全体を見据えた一貫性のある支援につなげていく。
3	少人数制の支援体制により、一人ひとりの特性や体調、気持ちの変化を丁寧に把握している。安心して過ごせる環境の中で、成功体験を積み重ねられる支援が行えている点が強みである。	少人数制の特性を活かし、子どもの成長や変化を職員間で共有している。また、支援の意図やねらいを保護者へ伝え、家庭と連携しながら支援の質を高めることを意識している。	一人ひとりと向き合う時間を大切に、声かけや関わり方を職員間で振り返っていく。日々の気づきや情報共有を継続し、状況に応じた柔軟で安心感のある支援体制の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動療育を強みとしている一方で、学習面や生活面への支援の取組について、保護者や関係機関に十分に伝わりにくい場合がある。	運動療育を事業所の特徴として発信しているため、支援内容が運動中心であるという印象を持たれやすい点が要因と考えられる。	個別支援計画や日々の連絡を通じて、学習面・生活面を含めた支援全体を丁寧に説明し、支援内容への理解が深まるよう工夫していく。
2	発達段階や特性に応じた支援を行っているが、成果が短期間では見えにくく、小さな成長や変化が保護者や関係機関に十分伝わらない場合がある。	運動療育や生活面の支援は、継続的な関わりの中で効果が現れる特性があり、短期間では成果を実感しにくい点が要因と考えられる。	個別支援計画に基づく目標設定と定期的な振り返りを行い、小さな変化も記録・共有することで、支援の見える化と共通理解を図っていく。
3	保護者を対象としたペアレントトレーニングを体系的に実施できておらず、家庭での関わり方や対応方法について、十分な支援が行き届いていないと感じられる場合がある。	日々の支援や送迎時のやり取りを中心に保護者支援を行っているため、体系的なペアレントトレーニングの実施まで十分に手が回っていないことが要因と考えられる。	保護者面談や情報提供の機会を活用し、家庭でも取り組みやすい内容から段階的に共有するなど、無理のない形で保護者支援の充実を図っていく。